

和洋一 賢けん ドイツ文學者。明治二十六年九月、千二千二百京都在此
 (一九三二)。筆名水野七郎。昭和五年京都市帝國大學文學部獨文科卒。
 昭和二十四年同まま社大學教授。

譯著書 ヨーゼフ・マクス・ヴェーネル作「ヴェルダン戦の七人」
 (譯、昭和十九年六月千白白水社「現代獨逸國民文學」)、
 「灰色のユーモア」私の昭和史ノオト」(昭和二十二年十一月理論社)、
 「朝鮮を兒と考えたこと」(昭和二十九年六月千白白朝協会京都府連出版
 版委員会、京都・あほうん社)、
 「新島襄」(昭和四十九年二月、千白白日本基督教団出版局)、
 「私の昭和史」
 「世界文化」のころ」(昭和五十二年八月)千白白小学館「二〇〇万人の創造選書」)、
 「わたし
 の始末書」キリスト教・革命・戦争」(昭和五十九年九月、千白白日本基督教団出版局)等。



わたしの始末書 千白白基督教革命戦争 和洋一 著

和洋一

わたしの
始末書

キリスト教・革命・戦争

大正から昭和へと移り変わっていく時代の中で、著者はどのように生きたか。15年戦争の始まる前の革命運動の惨敗、関東大震災、天皇制、共産党のこと、そして内村鑑三や河上肇らの自由な人物評など、興味あふれる内容。